

第3回東日本大震災に関する活動助成 活動報告書

団体名	縁の下のもぐら
活動テーマ	宮城県山元町、被災家屋の復旧及び再建支援と仮設住宅の寄り添い型の相互活動の導入 ～早期再建を支援する物理作業支援と仮設住宅での生活にゆとりと安心を支える心通わす支援



【家屋の片づけ、修復のための解体、浸水林の伐採】

被災家屋の泥出しや汚損した家財の撤去に始まり、床や壁など破損及び汚損した家屋の部材を解体撤去することで修復（リフォーム）による復旧を早める活動です。

修復を行う業者（工務店、大工などの職人）の手が足りない中で、可能な限りをボランティアが行うことで業者の手間を省き、早期の再建を促します。事前に家主とも発注先の大工または工務店と打ち合わせを行って必要に応じて部材を残しながら破損部位を撤去します。

倒木による危険を避けるために、浸水被害を受けた屋敷林の伐採を行っています。作業を現地で活動するボランティアにも伝えています。

【足湯の活動と抹茶のサービス】

被災地で行われている足湯活動は、利用者の手を取ることでふれあいと傾聴の効果が高く、親密な関係を築きやすい活動です。ボランティア経験の少なかったものの、依頼者に寄り添うように活動していた人たちに足湯の方法を伝達して、山元町で活動する足湯グループ『るるるジャパン』を結成しました。新しいグループとすることで、活動者が主体的に活動できる環境をつくり、縁の下のもぐらも共に活動しますが、ノウハウの伝達やアイデアの提案などをしながら、みんなが主体的に活動するようにしています。

みんなの意見ではじめた抹茶のサービスも利用者に好評で、多くの住民に顔を覚えてもらい、ふれあい活動の会話の中から作業のニーズを拾うことも多くなりました。